

令和7年12月23日

学校関係者評価委員長様

世田谷区立経堂小学校
校長 青鹿 和裕

令和7年度 経堂小学校自己評価報告書

<自己評価報告書を作成するに当たって>

- ・学校の重点目標ごとの具体的な方策の項目に沿って、「学校の自己評価」「保護者・地域のアンケート調査」「児童のアンケート調査」「全国学力調査」「東京都統一体力テスト」等の分析から、次年度の改善点の方向性を示しています。
- ・「とても思う」「思う」の評価を肯定的な評価として受け止め、分析や考察に活用しています。
- ・児童調査アンケートは、毎年5・6年児童を対象としています。

令和7年度の重点目標

1. 課題を解決する力の育成

「探究的な学び」を充実させ、自ら課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり、整理分析したりして自分の考えをまとめ、表現できる子どもを育てる。

2. 自他を大切にすると共に、自己肯定感の育成

子どもを認め、思いを聞く指導を基盤に、「学び合う活動」「学びを振り返る活動」を充実させ、自分や友達のよさを見付け、互いを伸ばしていく子どもを育てる。

3. 「やわらかい心」の育成

自己の目標（ゴールイメージ）に向けて、諦めずに粘り強く取り組むことや互いに学び合い成長し合うことを通して、非認知能力を高め、健やかな心や体を自ら耕す子どもを育てる。

重点目標を達成するための基本方針

1 「キャリア・未来デザイン教育」の実現

(1) 評価結果

【全国学力調査の児童質問紙調査の結果から】

- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。（経堂小86.7%、東京都82.9%、全国83.3%）
- 学級活動における学級の話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。（経堂小85.1%、東京都79.6%、全国80.8%）

【東京都統一体力テスト 生活・運動習慣等の実態に関する調査から】

- どんな自分の目標でも失敗を恐れないで、挑戦している。（86.5%）

【保護者アンケート調査から】

- 学校行事は、子どもにとって達成感がある。（82.9%）

- 本校は、子どもの意欲を大切にしている。(79.7%)
- 自分の子どもは、「自分で自分を広げる」ために、自分の目標に向かって、諦めずに粘り強く取り組んでいる。(71.1%)
- 本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。(64.4%)
- 本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。(56.9%)
- 本校は、近隣の幼・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。(51.9%)

【児童アンケート調査から】

- 学校行事は達成感がある。(83.5%)
- 先生は、児童の意欲を大切にしている。(75.8%)
- 目標をもち、その実現に向けて努力している。(80.0%)
- 私は、「自分で自分を広げる」ために、自分のやりたいことに向かって、あきらめずに取り組んでいる。(75.3%)
- 私は、いつでも学習の振り返りをして、次に生かそうとしている。(71.9%)
- 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。(66.1%)
- 「学び舎」の中学校に行ったり中学生が来たりする機会がある。(38.1%)

【学校の自己評価から】

- 低学年では自分の好きなこと、得意なことをできるだけ増やし、様々な活動に意欲と自信をもつような取り組み(学級での係活動、1・2年生でのペア学習など)、中学年では友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割が自覚できるような取り組み(運動会でのダンスリーダー、遠足でのグループ活動など)、高学年では苦手なことや初めて挑戦することに、失敗を恐れずに取り組み、そのことが集団の中での自己有用感や自尊感情につながるような取り組み(委員会活動、宿泊行事での役割、学校行事での実行委員、経堂小パレードなど)を実施し、キャリア形成のために発達段階に応じた系統的な指導を行っている。
- 児童の非認知能力を伸ばすために、全校で取り組んでいる楽しさを大切に学習や学び合い、学校行事の振り返りの習慣化が定着している。校内で振り返りの視点を明確に統一し教室に掲示することで、学年ごとに系統的に指導できるようにしている。
- 校内で統一した各学期のめあてカードを年間を通してめあてと振り返りを1枚に記入できるようにまとめて、キャリアパスポートファイルに蓄積している。キャリアパスポートは児童が随時見返せるようにし、自らの成長を実感できるようにするとともに、家庭に持ち帰ることで、家庭との共有を図っている。

(2) 考察

- ・6年生を対象とした全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果より、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」に対して肯定的回答が86.7%、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」は85.1%といずれも高く、全国や都の平均よりも上回る結果であった。各学級での学級会を中心とした学級活動で育まれた児童の自治的能力が、学校行事や授業での主体的な態度につながっていると考えられる。
- ・東京都統一体力テストの生活・運動習慣等の実態に関する調査において、「どんな自分の目標でも失敗を恐れなくて、挑戦していますか。」という質問項目に対する児童の肯定的な回答86.5%であった。学習を楽しみながら、粘り強く問題解決を進める姿勢が身に付いていると考えられる。
- ・「学校行事は達成感がある」項目についての肯定的回答は、保護者は82.9%、児童83.5%であった。また、「児童の意欲を大切にしている」項目についても、保護者は79.7%、児童は75.8%であり、学校行事や授業における児童の意欲を大切に指導に対して肯定的であると考えられる。

- ・「目標をもち、その実現に向けて努力している」についての児童の肯定的回答は80.0%であり、昨年度の76.4%より上昇した。また、「『自分で自分を広げる』ために、自分のやりたいことに向かって、あきらめずに取り組んでいる」について、児童の肯定的回答は75.3%であり、保護者が71.2%であった。保護者の昨年度の回答は65.6%と児童の回答との乖離が見られたが、肯定的回答が5ポイント上がり、児童の自己の目標に向かって取り組む姿勢が保護者にも伝わっていることが分かる。
- ・「私は、いつでも学習の振り返りをして、次に生かそうとしている。」の児童の肯定的回答は71.9%であり、昨年度の76.8%よりも減少する結果となった。昨年度は「私は、学習や行事の振り返りをして、次に生かそうとしている。」という質問項目であり、「いつでも」という観点から肯定的回答の減少が生じたと推察される。一方、保護者の肯定的回答は70.1%であり、昨年度の63.2%よりも大きく増加した。児童が振り返りを生かそうとしている姿勢が保護者にも伝わっていると考えられる。
- ・「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」の児童の肯定的回答は、昨年度の74.5%から今年度は66.1%と減少しており、各学年、各教科での学びが自己の将来につながっていると実感には課題がある。保護者の肯定的回答は56.9%と低いが、昨年度の47%より約10ポイント高くなった。毎年行っている6年生を対象とした様々な職業の方によるキャリア教育授業を、今年度は学校公開期間中に実施することで、多くの保護者に参観してもらうことができたことが成果となったと推察される。引き続き、学校での教育活動を家庭とも共有しながら連携して取り組んでいきたい。
- ・「学び舎」の情報提供に関する回答は保護者、児童共に低く、「学び舎の中学校に行ったり中学生が来たりする機会がある」に対する児童の肯定的回答は38.1%と、昨年度の48.3%、から大きく下がり、一昨年度の30.0%よりは高いものの引き続き大きな課題である。

(3) 改善策

- ①学校行事、学級活動では引き続き児童の実態に合わせた指導の充実を図っていく。特に学級会では児童が行事や学級の諸問題に対して自分たちで考え、話し合い、決まったことを実践していく難しさ、楽しさを味わわせ、自治的能力やよりよい人間関係を築こうとする態度や、学校生活全般に対する意欲を育てていく。
- ②めあて、振り返りの視点を明確にした指導は今後も継続し、校内研究と連携しながら、全学年で各教科・領域における系統立てた指導を行う。めあてカードや各教科、行事での振り返りシートの活動のねらいについて児童だけでなく保護者にも明確に提示し、家庭と連携しながら進める。
- ③全教科・領域・学校行事・特別活動において、学年の発達段階に応じたキャリア教育に結び付けた指導を引き続き行っていく。児童へ具体的な意識付けを行いながら、地域・保護者には公開するだけでなく活動内容によっては協力を仰ぎ、協働していく。
- ④学び舎の交流について、今後も各学校と調整しながら充実していけるように進める。みどりの学び舎の重点目標である「やわらかい心の育成」や、中学校生徒会の活動指針に沿って代表委員会が対応できるように、教員同士の情報共有をしていく。また、本校の卒業生である中学2年生が小学校で職場体験をしていることや、「みどりの学び舎」の生徒会と代表委員会がオンラインで交流していることなど、より一層、児童や保護者にも情報提供をしていく。

2 教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）や多様化された質の高い教育の推進

(1) 評価結果

【全国学力調査の結果から】

- 全国学力・学習状況調査（6年生対象）の結果から、「知識・技能」の観点における正答率は、東京都・全国の平均と比べ、調査教科である国語・算数・理科で大きく上回っている。
- ・国語・・・経堂小79.2%、東京都76.6%、全国74.5%

・算数・・・経堂小76.8%、東京都70.9%、全国65.5%

・理科・・・経堂小63.1%、東京都57.7%、全国55.3%

○全国学力・学習状況調査（6年生対象）の結果から、「思考力・判断力・表現力」の観点における正答率は、東京都・全国の平均と比べ、調査教科である国語・算数・理科で大きく上回っている。

・国語・・・経堂小70.2%、東京都67.1%、全国63.8%

・算数・・・経堂小62.7%、東京都54.4%、全国48.3%

・理科・・・経堂小61.9%、東京都61.2%、全国58.7%

○全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査「学び方」に関する項目より

・自分と違う意見について考えるのは楽しい。（経堂小85.2%、東京都77.2%、全国78.1%）

・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。（経堂小91.5%、東京都81.0%、全国80.3%）

・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている。（経堂小88.3%、東京都82.3%、全国81.7%）

・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。（経堂小86.2%、東京都81.0%、全国80.3%）

・5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。（経堂小88.3%、東京都79.4%、全国77.8%）

○全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査結果「学校の学習における ICT 活用」に関する項目より

・5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を「週3回以上」「ほぼ毎日」活用した。（経堂小83.6%、東京都50.4%、全国46.7%）

○全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査結果「ICT活用のよさ」に関する項目より

・画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。（経堂小90.6%、東京都87.3%、全国88.1%）

・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。（経堂小87.5%、東京都78.9%、全国77.6%）

・自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。（経堂小92.2%、東京都81.9%、全国81.3%）

・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。（経堂小85.9%、東京都84.8%、全国84.6%）

・友達と協力しながら学習を進めることができる。（経堂小89.0%、東京都87.4%、全国87.5%）

【保護者アンケート調査から】

○本校は、丁寧に指導している。（85.7%）

○本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。（79.5%）

○本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。（82.8%）

○本校は、黒板の書き方を工夫したり、映像やタブレットを活用したりし、分かりやすい授業をしている。（86.1%）

【児童アンケート調査から】

○先生たちは丁寧に指導してくれている。（85.4%）

○先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。（90.4%）

○私は、授業中に、必要な情報を集めたり整理したりして、自分の考えをまとめている。（81.9%）

○授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。（92.7%）

○先生は、黒板の書き方を工夫したり、映像やタブレットを活用したりし、分かりやすい授業をしている。（87.3%）

○私は、自分でめあてを立てたり計画を立てたりして学習している。(76.2%)
○私は、友達との関わり合いや学び合いを通して、成長している。(82.3%)
●私は、いつでも学習の振り返りをして、次に生かそうとしている。(71.9%)
●私は、授業中に、自分の考えを書いたり話したりして伝えている。(67.6%)
【東京都統一体力テスト 生活・運動習慣等の実態に関する調査から】
○体育の授業は楽しい。(92.8%)
【学校の自己評価から】
○「楽しさや喜びを意識した授業づくり」や「学び合い・振り返りの充実」を手だてとした体育科および保健の校内研究授業を年間12本行った。これまで5年間積み重ねてきた算数科の研究の成果が、体育科を中心に算数以外の教科にも広がり、日常的に学習内容の中心となる部分や探究的な学びのプロセスを意識した授業を行っている。
○教育活動の様々な場面で、学習用タブレット端末を日常的な学習ツールとして活用し積極的に活用し、児童の情報活用能力の向上を図るとともに「探究的な学び」や「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な学びが充実するようにし、学習効果を高めることに努めている。
○教科担任制や学年間での交換授業を積極的に進め、質の高い授業づくりに努めてきた。

(2) 考察

- ・探究的な学びに関する質問項目である「考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている」について、保護者の肯定的回答は79.5%、児童は90.4%、「考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」についても、保護者は82.8%、児童は92.7%と肯定的な回答が多い結果となった。6年生児童を対象とした全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査においても、「課題解決」や「学び方の工夫」、「活用」といった探究的な学びに関する項目で昨年度同様に、東京都や全国平均を大きく上回った。令和2年度より校内研究で取り組んできた「探究的な学び」の実現を目指した授業改善が、これまでの研究教科の算数科だけでなく、今年度の研究教科である体育科を中心に他教科等にも広がって実践を積み重ねることができており、児童にも探究的な学び方が身に付いてきていると考える。
- ・全国学力・学習状況調査の結果から、思考力・判断力・表現力の観点における正答率は東京都・全国の平均と比べ、調査教科の国語・算数・理科ともに上回っている。校内研究を通して、問題解決的な学習や学び合い、学びの振り返りを重視し、学びをつなげて深められるように授業改善を行ってきた成果と考える。
- ・東京都統一体力テストの生活・運動習慣等の実態に関する調査において、「体育の授業は楽しいと思いますか。」という質問項目に対し、児童の肯定的な回答は92.8%であった。本校で目指している「楽しさや喜び」を大切に授業づくりに、一定の成果があったと考える。
- ・全国学力・学習状況調査結果から、「PC・タブレットなどのICT機器を、これまで頻繁に使用してきた」と肯定的回答をした児童が83.6%おり、全国平均を大きく上回っている。また、「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」の項目では90.6%の児童が肯定的に回答しており、学校評価アンケート調査でも、「本校は、黒板の書き方を工夫したり、映像やタブレットを活用したりし、分かりやすい授業をしている。」の項目において、保護者の肯定的回答は86.1%、児童は87.3%と共に高水準である。令和元年度の全児童への一人一台のタブレット端末配備から6年が経ち、今年度は全タブレット端末のリプレイスがあった。使える機能も広がったことで、授業内での日常的な活用がより一層定着し、児童の確かな学びへとつながっている。
- ・全国学力・学習状況調査結果から、問題解決学習や学び合いなどの場面でICT機器の使用が役に立つと回答している児童が非常に多い。ICT機器の効果的な活用が探究的な学びの実現に有効であると児童自らが実感していることが分かる。

(3) 改善案

- ①今後もより一層、教員が教材研究に努め、各学年の学習内容や学年間での系統性について理解を深めていく。そして、児童が問題解決の必要性を感じながら、探究的に学ぶサイクルを進める中で、児童の学ぶ姿や記述を教員が丁寧に見取り、児童が学習の成果を実感できるように価値付ける。こうした指導を通して、児童が既習事項を使って考えたり、協働的に学んだりしながら、自ら問題解決を図る力を育む。そして、児童が学習を通して成長できた喜びを感じることを積み重ねられるようにしていく、次の学習に自信をもって取り組んでいけるようにする。
- ②算数科・体育科を通した6年間の探究的な学びの校内研究の成果を生かし、他教科でも実践することで、全教育活動での探究的な学びの実現を目指す。
- ③児童の探究的な学びの姿をホームページや学校公開、保護者会等で積極的に発信する。また、学校だよりにより校内研究の取組や児童の成長を定期的に掲載し、探究的な学びのねらいや成果を保護者や地域とともに共有し、児童の学びがよりよいものになるように協力していく。

3 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進

(1) 評価結果

<p>【全国学力調査の児童質問紙調査の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校に行くのは楽しい。(経堂小85.2%、東京都86.1%、全国86.5%) ○自分には、よいところがある。(経堂小84.4%、東京都87.4%、全国86.9%) ○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。(経堂小89.9%、東京都91.8%、全国92.2%) ○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。(経堂小85.2%、東京都77.2%、全国78.1%) ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。(経堂小89.8%、東京都84.7%、全国84.9%) ○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。(経堂小80.4%、東京都70.9%、全国70.6%)
<p>【保護者アンケート調査から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。(84.1%) ○自分の子どもは、思いを大切にされたり、よさを認められたりしている。(77.1%) ○本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。(80.2%)
<p>【児童アンケート調査から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校生活は楽しい。(82.7%) ○授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。(92.7%) ○私は、友達との関わり合いや学び合いを通して、成長している。(82.3%) ●先生たちに相談できる。(64.6%) ●私は、自分の思いを大切にしたり、自分のよさを見付けたりしている。(70.4%)
<p>【地域のアンケート調査から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校からのお知らせ(学校だより)や学校行事、学校公開や道徳地区公開講座などで、学校の様子が分かる。(91.7%) ○地域の人や施設を教育活動に生かしている。(75.0%)
<p>【学校の自己評価から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6月、11月、2月にふれあいアンケートを実施し、アンケートで気になる回答をした児童には、個別に話を聞く機会を設けている。また、2学期の運動会前には6月に聞き取った内容について、再度話を聞き、児童が学校生活において不安を感じずに生活できるように配慮している。 ○3年生以上の児童を対象にWebQ-Uアンケートを実施し、児童一人一人の思いを読み取り、個に応じた支援の方法を考え実践した。また、2回目のアンケート結果から1回目に講じた手だてが有効だったのかを検証し、よりよい支援策を学年で講じた。

- 多くの教員が児童の成長に携わることができるように、算数少人数指導や学年の中での交換授業など、多面的に指導にあたることができるようにした。
- 個に応じた指導が行えるようにするために、生活指導全体会や毎週末の生活指導夕会、毎月の校内委員会などを活用しながら、児童の情報を学校全体で共有した。また、特別支援教室の教員やスクールカウンセラー、学校包括支援員などとも連携を密にし、指導の充実に努めた。

(2) 考察

- ・「学校生活は楽しい」と回答した5・6年生の児童は82.7%、「本校の学校生活は子どもにとって楽しい」と回答した保護者は84.1%と、ともに高水準であった。一方、6年生児童を対象とした全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は85.2%と高い数値ではあるが、昨年度の93.5%に比べ8ポイント以上減少した。
- ・6年生児童を対象とした全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「自分にはよいところがある」と肯定的回答をした児童は84.4%であり、昨年度より4ポイント減少しているものの、高い結果となった。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」とについての肯定的回答は89.9%と高水準であった。一方、「私は、自分の思いを大切にしたり、自分のよさを見付けたりしている。」ことについて、児童の肯定的回答は70.4%であり、昨年度の74.2%に比べて若干減少している。
- ・「先生たちに相談できる」ことについての5・6年生児童の肯定的回答は64.6%であり、昨年度の62.4%より微増してはいるものの、課題が見られる。回答している児童は高学年ということもあり、年齢とともに子どもたちの悩みや困りごととも複雑化し、教員に相談することについての心理的ハードルは高いのではないかと推察される。
- ・6年生児童を対象とした全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と肯定的回答をした児童は85.2%おり、全国平均より7.1ポイント多く、昨年度の本校の82.9%よりも2.3ポイント増加した。また、「学級の友達との間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」とについての肯定的回答は89.8%で、いずれも高水準であった。学校評価アンケートにおいても、「私は、友達との関わり合いや学び合いを通して、成長している」と肯定的回答をした児童は82.3%おり、児童は友達との学び合いを通して、協働的な学びの楽しさを味わいながら、自らの成長を実感できていることがうかがえる。
- ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査において、「ICT 機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と肯定的回答をした児童は92.2%いた。本校で積極的に取り組んでいるドリルアプリでの家庭学習や、タブレットを活用した問題解決学習を行うことで、一人一人の習熟度や課題に合わせた個別最適な学びの実現につながると考える。

(3) 改善案

- ①東京都の策定している6月と11月のふれあい月間に加え、2月も含めた年3回の「学校生活についてのアンケート」を全学年児童対象に実施し、いじめの実態把握を行い、児童への個別の聞き取りを行っている。本校では、1回目と2回目のアンケートの間に「振り返り期間」を設け、1学期に聞いた悩みが解消されたのかどうかを確認している。個別に話を聞く機会を設けることで、児童が安心して悩みを打ち明けることができたり、いつでも先生に相談してもよいという気持ちになったりできるように努めている。また、担任だけでなく学年の他の教員や教育相談主任、生活指導主任、スクールカウンセラーなど、子どもたちが誰に相談してもよいことを日常的に呼びかけていく。
- ②今後も全教育活動で「学び合う活動」と「学びを振り返る活動」を充実させ、自分や友達のよさを見付け、協働しながら児童が成長できるよう支援していく。児童の成長の過程を学校だよりや学校ホームページなどで保護者や地域に積極的に発信して共有する。
- ③複雑化、多様化する子どもたちの課題をよりよい方向へと解決するために、校内委員会や生活指導全

体会を充実させるとともに、校内設置の特別支援学級、巡回指導の特別支援教室、スクールカウンセラーや子ども家庭支援センター、児童相談所、スクールソーシャルワーカー、医療機関や警察などの関係諸機関、そして何よりも家庭と連携しながら、個に応じた指導を進めていく。

4 地域社会と協働した教育の推進

(1) 評価結果

<p>【保護者アンケート調査から】</p> <p>○本校はホームページやすぐーる、お便りなどで保護者に情報を提供している。(92.9%)</p> <p>○本校は公開や保護者会などで児童の様子がわかる。(90.1%)</p> <p>○本校は、保護者に重点目標を伝えている。(85.7%)</p> <p>○本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。(80.2%)</p> <p>○私は、学校公開や学校行事に参加している。(95.6%)</p> <p>●本校は地域への情報提供を行うとともに、地域の活動などに協力的である。(75.2%)</p> <p>●私は、今年度の重点目標を理解している。(64.1%)</p> <p>●私は、学校行事のボランティアやPTA、地域主催の行事などに協力している。(69.2%)</p>
<p>【地域のアンケート調査から】</p> <p>○学校からのお知らせ(学校だより)や学校行事、学校公開や道徳地区公開講座などで、学校の様子が分かる。(91.7%)</p> <p>○学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。(77.8%)</p> <p>○学校の重点目標が明確である。(86.1%)</p> <p>●地域の人や施設を教育活動に生かしている。(75.0%)</p> <p>●学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。(72.3%)</p> <p>●地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。(66.6%)</p>
<p>【学校の自己評価から】</p> <p>○今年度も、読み聞かせサークル「ありのまま」の皆さんによる読み聞かせ、社会科・総合的な学習の時間における地域人材のゲストティーチャーの講話等に加え、地域のボランティアの方々による1年生への給食配膳・片付け支援、2・3年生児童向けの放課後算数教室「寺子屋クラブ」の採点支援など、継続的な地域人材活用により、教育活動や指導の充実を図ることができ、大変ありがたかった。</p> <p>○ゲストティーチャーを招いての講話や、地域の施設や商店街での校外学習、消防団やまちづくりセンターによる防災教室を年間計画に位置付け、人と人とのつながりを重視した学習を行うことで、地域人材や施設を活用した児童の「見る・聞く・話す」活動の充実を図ることができた。ご多用の中、人材探しやスケジュール調整等、ご尽力していただいた学校支援コーディネーターの皆様のおかげで、児童の学びがより一層深められた。</p>

(2) 考察

- ・「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」項目について、保護者は80.2%が肯定的な回答であり、4.1ポイント増加した。徐々に地域と連携した教育活動を再開し、各学年で近隣の商店街や施設の見学、地域人材を活用した授業や活動などを多く実施することができた。
- ・おたよりや連絡アプリ、ホームページなどの学校から情報提供について、保護者の肯定的評価は92.9%、地域は91.7%と高い割合となった。また、保護者自身の学校公開や学校行事に対する参加意識は95.6%と非常に高い結果となった。これは、学校が多様な手段を活用して情報発信に努めていることの表れであり、保護者自身が学校の取り組みや活動状況を把握しやすい環境が整っていると評価できる。

- ・学校公開や保護者会での情報提供に対しての保護者の肯定的評価は90.1%、学校のホームページに関する情報提供への地域の肯定的評価も77.8%と高く、公開授業や保護者会などを通じて、保護者が児童の学校生活や成長の様子を直接知ることができている点は、学校と家庭の信頼関係構築に寄与していると考えられ、また、インターネットを活用した情報発信が地域にも浸透していることがうかがえる。
- ・学校の重点目標の伝達については、保護者の肯定的評価は85.7%、地域は86.1%と昨年度よりもさらに上昇し、学校が教育目標や方針を地域にも分かりやすく伝えていることを評価している。これは、地域が学校教育の方向性を理解し、協力体制の構築に寄与していることを示唆していると考えられる。ただし、保護者への伝達は十分であるものの、全ての保護者が確実に受け取れているわけではない点は今後の課題である。また、重点目標の理解についての保護者の肯定的評価は、昨年度の58.5%より5.6ポイント上昇してはいるが、64.1%にとどまっている。学校からの情報提供は高い水準にあるものの、保護者自身の理解度はやや低い傾向が見られる。これは、伝達方法や説明内容に改善の余地があること、あるいは保護者側の関心や受け取り方の違いによるものと考えられる。今後は、より分かりやすい説明や双方向のコミュニケーションを促進する工夫が考えられる。
- ・地域資源の活用についての保護者の肯定的評価は80.2%、地域の肯定的評価は75.0%であった。その一方で、地域の活動への協力体制や地域の意見に対しての対応については、保護者の肯定的評価は75.2%、地域の肯定的評価は66.6%にとどまっている。また、保護者の学校行事ボランティアやPTA、地域主催の行事などへの協力意識についても69.2%にとどまっている。これらの結果から、学校が地域資源の活用に努めていることがうかがえる一方で、保護者、地域との連携や意見対応については、さらなる改善や工夫が求められる状況であると考えられる。

(3) 改善策

- ①学校の教育目標および重点目標、学校経営方針について、保護者により分かりやすいものにするよう、内容や方法を精選する。また、保護者会などで目指す子どもの具体的な姿を交えて説明することで、保護者の理解促進に努める。
- ②今後も、地域人材による読み聞かせやゲストティーチャーの講話、学習支援など、次年度より始まる学校運営協議会のしくみにつなげる外部と連携した教育活動を充実していく。
- ③地域の意見や要望への対応、学校運営委員会の活動周知、さらなる地域資源の活用などについては、より双方向的なコミュニケーションや協働体制の構築が重要と考え、保護者や地域の声をより丁寧に受け止め、学校運営に反映していき、開かれた教育活動の推進と、子どもたちのより良い成長環境の整備につなげる。

5 健やかな体づくり

(1) 評価結果

【東京都統一体力テストの結果から】
<ul style="list-style-type: none"> ●男女共に全ての学年において、東京都の平均と比べるとどの学年も平均ぐらいの数値である。 ●学年によって平均の差はそれぞれだが、校内全体で見ると、「反復横跳び」「シャトルラン」「ボール投げ」が低い傾向にある。
【東京都統一体力テスト 生活・運動習慣等の実態に関する調査から】
○体育の授業は楽しい。(92.8%)
【保護者アンケート調査から】
○子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。(73.6%)
【児童アンケート調査から】

○私は、運動することが楽しい。(78.1%)

●私は、体育の授業や休み時間に、積極的に運動している。(61.9%)

【学校の自己評価から】

○体育科を通じた探究的な学びを校内研究のテーマにし、全学年において指導の系統性を意識した年間計画を立て、体育の指導を行った。

○体育の授業で行った運動を休み時間にも行っている児童の姿が見られた。

○校庭で全校児童そろっての体育朝会の実施や運動遊びに取り組む全校朝会などを実施し、児童の運動への興味関心を高められた。

(2) 考察

- ・東京都統一体力テストの結果では、東京都の平均と比べるとどの学年も平均ぐらいの数値であるが、校内全体だと、反復横跳び、20mシャトルラン、ソフトボール投げの種目のスコアが都や全国に比べて低く、敏捷性や長く粘り強く続ける運動、ボールを遠くに投げる運動が本校の課題と分かった。運動機会の減少や全校児童数の増加に伴い、休み時間に思い切り遊ぶには校庭の広さが十分でないことや、小さいボールを投げたり捕ったりする運動経験の少なさが要因として考えられる。
- ・今年度は「運動(遊び)って楽しい!」という気持ちになるような、「楽しさや喜び」を大切にしたい体育の授業研究や学習環境や用具を充実させた。「私は運動することが楽しい」ことについて、児童の肯定的回答は78.1%であった。また、「私は、体育の授業や休み時間に、積極的に運動している」ことについての肯定的回答は61.9%であった。体育の授業だけでなく、休み時間や放課後、休日にも運動(遊び)してみようと思えるような教育活動にしていくことが大事になっていく。
- ・今年度も休み時間の校庭および体育館で全学年が遊べるようにして、身体を動かせる機会をより多く設けた。また、体育朝会を年間計画の中に位置付け、学校行事と関連させた体育的な内容や様々な運動を計画的に取り上げ、児童の運動への興味関心をもたせるようにした。保護者の「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」ことについての肯定的評価は、昨年度の69.2%から今年度は73.6%に微増ではあるが向上した。
- ・学校では運動機会確保や体育の授業における指導力向上を図ったり、『給食だより』や『保健だより』などを通して、家庭とともに『食育』や『健康教育』を推進したりしている。栄養士が作成している「献立表」では毎月の行事食や郷土料理、世界の料理などを取り入れた献立を紹介したり、「給食だより」では毎月の栄養目標や給食目標に合わせて栄養と健康について情報発信したりして、栄養と健康、食文化についての理解啓発に努めている。今年度もPTA文化厚生委員会と連携した給食試食会を実施し、保護者に実際の給食を試食してもらう機会をもつこともできた。また、毎月の世界の料理や郷土料理を取り入れた献立や、1年生が皮をむいたトウモロコシをその日の給食に提供するなど、児童に対する食育も工夫して行っている。健康教育については、養護教諭が毎月「ほけんだより」を発行し、時期や気候に合わせた記事を掲載することで、家庭への啓発を行っている。今年度の発育測定時には、けがの対処法と予防法について児童への保健の指導の動画を作成した。動画視聴前後に2年生を対象にアンケートを実施したり、保健室来室記録を活用したりし、児童の実態に応じた内容にした。また指導と関連付ける内容の掲示物を作成し、保健室前に掲示した。

(3) 改善策

- ①体育朝会や全校朝会をきっかけとして、より運動に興味をもって取り組めるような内容を検討する。
- ②今年度は運動委員会が中心になって体を動かすイベントを企画した。校内放送やポスター掲示を活用して運動を奨励するとともに、運動委員会など高学年児童が中心となって休み時間に体を動かすイベントには多くの児童が参加し楽しい運動機会となった。ボールを投げる経験を増やすために、紙でっぽうやボール投げ補助具などの用具を充実させた。今後も指導のねらいや児童の実態に合わせ、用具

を自由に使えたり、自然と遊んでみたくなったりするような環境づくりを行う。

- ③体育の授業で行った運動を、継続して休み時間でも行えるように使用できる用具を充実させる。現在使用できるボールやソフトディスク（ドッチビー）、長縄などに加え、安全に配慮したうえで、鉄棒の補助具や短縄、バットなどの貸し出しをして様々な運動に親しむ機会を意図的・計画的に設定する。
- ④なかよしデーでは、異学年で関わりながら運動に親しむ機会を設定した。体を存分に動かせる内容や場所を6年生と一緒に検討する。
- ⑤「運動が楽しい！」と思えるような教師の更なる体育指導技術向上を目指す。校内での OJT や体育便りの発行、外部講師を招いての実技研修や模擬授業の機会を設定する。また日常的に互いの授業を見合う雰囲気づくりを行い、指導力の向上につなげていく。

6 学校における働き方改革の推進

(1) 評価結果

【学校の自己評価から】

- 教科担任制や学年間での交換授業を積極的に進め、質の高い授業づくりに努めてきた。
- 時程を見直し、1校時の授業開始時刻を5分遅らせることで、朝の時間のゆとりをもたせた。
- 学校支援コーディネーターによる専門家・外部人材の活用を進めている。
- 校務分掌組織を常置委員会と特設委員会のメンバーを重ねて構成することで、学校重点目標の具現化のためにより協働して連携できるようになった。

(2) 考察

- ・都費講師枠を有効活用し、図工は2年生から、音楽は3年生からの専科指導や1年生の算数 TT 授業、2年生からの算数少数指導を行えるようにしている。担任の指導時間の削減で教材研究や業務推進時間を生み出すとともに、子どもたちが専科教員による専門的な指導を受ける機会が増し、教育の質の向上を図っている。
- ・学年の中で交換授業を積極的に行うことで、子どもたちを担任だけでなく、複数の学年の教員で多角的に見取ることができ、より深い児童理解につながっている。また、教員の教材研究の負担軽減だけでなく、1つの授業を複数回行うことができるようになり、教員の授業力向上の面でも成果があった。
- ・東京農業大学の教授による樹木に関する専門的な講義やフィールドワーク、様々な職業の地域人材による6年生を対象としたキャリア教育授業の講師、1年生の給食指導の補助や放課後算数教室「寺子屋」での採点ボランティア、低学年のまち探検の見守りボランティアなど、地域運営学校のしくみを最大限に生かし、学校支援コーディネーターの方々に人材集めやスケジュール調整等にご尽力いただいた。こうした外部人材の活用により、子どもたちの安心・安全や質の高い学びへとつながった。
- ・生活指導と体育的行事、特別活動と学芸的行事、研究推進と ICT 推進というように「常置委員会」と「特設委員会」とを同じメンバーで構成することで、より強固な協働体制が構築できただけでなく、時間枠内での会議運営ができるようになった。また行事等の実施時期に合わせ、時間調整しながら特設委員会を行うなど、会議設定枠を弾力的に運用することができるとともに、月に1回程度の「ノー会議デー」を設定できるようになり、業務改善につながった。「ノー会議デー」で創出された時間を、教員の本分である授業のための教材研究に充てることができるようになった。

(3) 改善策

- ①今後も、児童の質の高い学びを実現するために、学校支援コーディネーターやスクールサポートスタッフ、ICT 支援員などの人材の活用や校務改善を推進し、教員の余白の時間を創出し、質の高い授業のために教材研究に十分な時間が充てられるようにする。
- ②文部科学省が出している「学校・教師が担う業務に係る3分類」、「基本的には学校以外が担う業務」

「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」に則り、教師が教師でなければできない業務に専念できるよう、国や都、世田谷区教育委員会が進める働き方改革と連携しながら業務を見直していく。また、このことについて、地域や保護者の理解と協力を得ることが不可欠である。